

日常生活・行動上の支援に関する調査票の記入について

<ご記入にあたって>

- ・お子さまの状態は、適切な支援や環境が整っていない状況(例: 保護者や慣れている支援者がいない状況、初めての場所等)を想定してご記入ください。
- ・「できる時とできない時がある場合」は、「できない場合」を想定してご記入ください。
- ・該当しない場合は、「自立」または「支援不要」にチェックしてください。

1. 身の回りの世話や日常生活等に関連する項目

		一部介助	全介助
① 食事	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する行為の一部を自分で行えないため、部分的に支援(見守りや声かけ等を含む)が必要な場合。 ・食事を開始する前に、食べ物を食べやすくする等の支援を行っている場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する行為の全てを自分で行えないため、常時支援が必要、または食事の目的や内容を理解していない場合。 ・経管栄養(胃ろう、腸ろう等)や中心静脈栄養を行っている、全面的に支援を受けている場合。
	具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に特別な配慮をする必要がある。(例)軟食、きざみ食、ミキサー食、流動食、経管栄養(経口・胃ろう)、中心静脈栄養、宗教食、過度な食物アレルギー、特別なカロリー制限など配慮がある場合。 ・一度に口に詰め込まないよう等、安全面での配慮が必要。 ・特性のコップや食器等を使用しており、食事のサポートを行っている場合。 ・著しい偏食がある。(水が飲めない、食べられるものが極端に少ない等) ・感覚過敏(温度、食感のこだわり、食器のこだわり等)により配慮が必要。 	

		一部介助	全介助
② 排せつ	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・排せつに関する行為の一部を自分で行えないため、部分的に支援(見守りや声かけ等を含む)が必要な場合。 ・「清拭」行為が不十分なため、支援者等が部分的にやり直している場合。 ・尿意・便意はないが、時間を決めるなどしている場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排せつに関する行為の全てを自分で行えないため常時支援が必要、または排せつの目的や内容を理解していない場合。 ・「清拭」行為が不十分なため、支援者等が対象者自身の行った箇所を含めて全面的にやり直している場合。
	具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち便器、和式便器等、トイレの形状によって排せつが困難な場合。 ・促しがなければ、自発的にトイレに行くことが難しく、配慮が必要な場合。 ・自宅や学校など決まった場所ではしか排泄をしたがらない場合。 	

		一部介助	全介助
③ 入浴	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する行為の一部を自分で行えないため、部分的に支援が必要な場合。 ・「身体や髪、顔を洗う・拭く」行為が不十分なため、支援者等が部分的にやり直している場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する行為の全てを自分で行えないため、常時支援が必要、または入浴の目的や内容を理解していない場合。 ・「身体や髪、顔を洗う・拭く」行為が不十分なため、支援者等が対象者自身の行った箇所を含めて全面的にやり直している場合。 ・医療上の必要により入浴を禁止されており、配慮しながら清拭が必要な場合。 ・その他の事情で清拭しか行えない場合。
	具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の準備行為に時間がかかったり、入浴しても上がるまでに時間がかかったりすることがあり、見守りや配慮が必要。 ・全て自分で行えるが、1人で入浴させることはできない。(見守りや声かけを含む) ・感覚過敏があり、洗髪や洗顔、洗身に拒否を示すため、対応が必要。 ・石鹸やシャンプー、タオルなどにこだわりがあり、配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴する際に首の座りが悪かったり、体幹が弱く配慮が必要である。 ・常時抱っこで入浴の必要がある。 ・シャワーを怖がる、浴槽を嫌がるなど、入浴への強度の恐怖感がある場合。 ・シャワーベット等の器具を使用して、入浴している場合。

		一部介助	全介助
④ 移動	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で「移動」はできるが、部分的に(見守りや声かけ等含む)の支援が必要な場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者等による対象者の身体に触れる支援が全面的に必要な場合。 ・転倒防止等のため、移動中は常に抱っこや手をつなぐ等、常時の付き添いが必要な場合。 ・医療上の必要により、自力での移動を禁止されている場合。
	具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・階段や未舗装道路等の条件によって介助が必要になることがある。 ・道順や手段にこだわりがある。 ・感覚過敏等があり、外履きや靴下などに配慮が必要。 ・公共交通機関ではパニックになりやすく、利用できない。 ・移動が安定せず途中で立ち止まったり、座り込んだり、寝転んだりするため対応が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時手をつなぐ状態や、常時抱っこ等で移動が必要な状態。 ・常時バギーや車イス、お散歩カートなど移動用具が必要な場合。 ・道路への飛び出しがあり、信号を理解できない、障害物の回避が出来ないなどの理由で見守りが必要。 ・装具などを装着しているため、移動する際に配慮が必要。

2. 意思疎通等や、日常生活における行動上の障害への支援の必要性の有無について

⑤ コミュニケーション		支援が必要な場合がある	常に支援が必要
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れていない場面等では、口頭でのコミュニケーションが難しく配慮を必要とする場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツール等を用いても、自分の意思の伝達ができない場合。 ・自分の意思の伝達ができているかどうか判断が困難な場合。
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツール(絵カード、PECS、マカトンなど)、手話や筆談、点字等を用いている。 ・特定の人(保護者など)としかコミュニケーションがとれない。 ・特定の人(保護者など)、特定の場面でしかコミュニケーションがとれない。 ・慣れない場所や人前では、表情が硬く話すことが難しい状態。 ・吃音がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話のやりとりはなく、一方的に話しかけたり、オウム返しの返答など、自分の意思の伝達ができない。 ・行動でのみ自分の意思を伝えられる。(例:冷蔵庫の前に行く、他者の手を引いておもちゃを取らせる等) ・日常生活上パターン化された内容のみ、自分の意思を伝えられる。(例:ご飯と言う、おもちゃのみ指さしする等) 	

⑥ 説明の理解		支援が必要な場合がある	常に支援が必要
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明であっても理解できないことが多く、説明に応じた行動ができないことが多い場合。 ・コミュニケーションツールや手話等を用いると、おおむね理解ができる場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明も理解が難しい場合。 ・説明を理解できているか判断できない場合。
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明を聞いてうなずいたり、返事をするが、その後の行動が伴わないことがある。 ・1つのことはできるが、同時に2つ以上のことを指示されると行動が困難になる。 ・コミュニケーションツール(絵カード、PECS、マカトンなど)を用意することで、理解が促される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明をしても、うなづきや返事などが見られず、理解できていると考えられない、又は、理解しているのかを判断ができない。 ・日常生活の中で、パターン化された特定の行為(座る、食べる等)のみ理解できる。 	

⑦ 大声・奇声を出す		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲が驚いたり、他者が迷惑となるような大声や奇声を出す場合。 ・物などを使って周囲に不快な音を立てる場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯と場所を選ばず大声・奇声を出す。 		

⑧ 異食行動		支援が必要な場合がある (口に含むことがある)	常に支援が必要 (口に含み、飲み込んでしまう)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられないものを口に入れたり、飲み込んだりする異食行動がある場合。 ・異食行動を未然に防止するため、異食しそうなるものを周囲に置かないなど配慮が必要な場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられないもの(例:石や砂、玩具類、腐った食べ物、地面に落ちて明らかに汚れている食べ物、酒類、洗剤類など)を口に入れる。 ・物を口に入れて感触遊びをしたり、確認したりする行為がある。 ・服の袖を噛んだり、紐を口に入れることがある。 		

⑨ 多動・行動停止		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の物や人(対象が明確でない場合も含む。)に対する興味関心が強く、思うとおりにならないと多動になったり、その対象にこだわって動かなくなってしまう場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ○多動 <ul style="list-style-type: none"> ・周囲と協調できず、絶えず動いてしまう。またはマイペースに周囲と無関係に動いてしまう。 ・絶えず喋ったり、体の一部を常に動かしている。 ・ゆっくりした行動が難しい。(例:歩くことができず、すぐに走ってしまう等) ○行動停止 <ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思とは関係なく、次の行動に移ることが難しい。 		

⑩ 不安定な行動		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・予定や手続き、日頃から慣れている支援者や状況等が変わることが受け入れられず、突然大声を出したり、興奮する等のパニック状態になる等、行動が不安定になる場合。 ・不安、恐怖、焦燥等にかかられて衝動的な行動がある場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の物・人へ固執しており、それが無くなったり、変更してしまうと不安定になってしまう。 ・パニック、突然泣き出すことがある。 ・突然の予定変更があると次の行動ができなくなる。また、不安になり落ち着きがなくなってしまうたり、行動が停止する。 		

⑪ 自らを傷つける行為		支援が必要な場合がある (該当行為がある)	常に支援が必要 (常時見守りなどが必要)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体を叩いたり、頭を床に打ち付けたりなど、自分の体を傷つける行為がある場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の頭を叩いたり、つねったり、床や壁に打ちつける。 ・傷口を触ったり、ほじったりして治らない。 ・自分で口に指を入れて嘔吐する。 ・衣服を破ることがある。 		

⑫ 他人を傷つける行為		支援が必要な場合がある (該当行為がある)	常に支援が必要 (常時見守りなどが必要)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を叩く、髪の毛を引っ張る、蹴る等、他人を傷つける行為がある場合。 ・物を壊したり、物を投げたりする等、他人を傷つける危険性がある場合。 ・相手を侮辱する等、心理的に相手を傷つける行為がある場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を叩く、髪を引っ張る、蹴る、押す等の行為がある。 ・物を壊したり、投げたりする行為がある。 ・暴言(バカ、死ね等)、相手を侮辱したり、からかったり、いじめたりする行為がある。 ・他人へ過剰な注意や干渉によるトラブルを起こす場合がある。 		

⑬ 不適切な行為		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心が優先したり、適切な意思表示ができなかったり、判断能力が不十分だったりする等により、不適切な行為がある場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・見知らぬ人に対し、過度に親しげな振る舞いをする。(抱きつく、膝の上に座るなど) ・他人に急に接近したり、のぞき込んだり、体に触ったりする。 ・うそをつく。 ・断りもなく人の物を持ってきてしまう、盗む。 ・感情のコントロールに困難があり、些細な出来事で直ぐにかんしゃくをおこしたり、周囲の人とトラブルになりやすい。 ・意図的に保護者や職員等に従わず反抗する。また、過度な要求をする。 ・過度に人や物の臭いを嗅ぐ行為がある。 		

⑭ 突発的な行動		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・関心が強い物や人を見つけたら、突然気になる方へ走って行ってしまおう等、突発的な行動がある場合。 ・危険の認識が弱く、道路への飛び出しや高所から飛び降りる等の行為がある場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・手にしたものを突発的に投げってしまう。 ・気になるものや事柄があると、大人から勝手に離れてしまい、迷子や行方不明になることがある。 ・気になることがある場合に、手を繋いでいても振り切り、気になる方に行ってしまう場合がある。 ・危険の認識が弱く、突発的に道路に飛び出したり、自分の身体能力を超えた高さから飛び降りる、熱いものなど危険なものに手を出してしまう。 		

⑮ 過食・反すう等		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・過食や過飲、拒食、反すう等、食に関する行動上の問題がある場合。 ・食に関して特別な配慮事項がある場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ○食に関する行動上の問題 ・過食、拒食(例:異常な量を食べる、環境の変化によって食べられなくなるなど)がある。 ・口に入れたものを飲み込めず、口に溜めたままにする。 ・極度な偏食(例:白米だけしか食べない等、特定の物だけしか食べない)。 ○食に関する特別な配慮 ・アレルギー食対応、宗教食対応が必要。 ・咀嚼(噛む行為)・嚥下(飲み込む行為)の課題があり配慮が必要。(例:きざみ、ミキサー食など) 		

⑩ てんかん		経過観察あり	診断あり
	状態	てんかんの経過観察あり	てんかんの診断あり
具体例	・服薬対応までしていないが、てんかんの経過観察を行っている。	・てんかんの診断がある(服薬している場合も含む)。 ・発熱時に抗けいれん薬等で対応をしている。	

⑪ そううつ状態		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が憂鬱で悲観的になったり、考えがまとまらないため、日常生活に支障をきたす場合。 ・気分の高揚により、様々なことを思いつき、次々と行動に移すため、社会生活に影響を及ぼす場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ○うつに関連する行動 ・急に泣いたり、笑ったりする。日常の活動への興味や意欲が感じられない。 ・自殺企図がある。 ・気分安定剤などの薬物を使用している。 ・睡眠に課題があり、睡眠が安定しない、まとまった睡眠がとれない。 ○そうに関連する行動 ・気分の高揚、社交性の増大、多動、多弁、過度な興奮状態、怒りやすい 		

⑫ 反復的行動		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ある考えに固執し、特定の行為を反復したり、儀式的な行為にとられる等により、動作に時間がかかり日常生活に支障が生じる場合。 	
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・物や行為にこだわり特定の行為を反復する(例:言葉やTVのフレーズを繰り返し話す、機械類をずっと見ていたり、気になると時や場所を選ばず寄って行ってしまふ、特定の玩具でしか遊ばない。) ・スケジュールや物の置く位置などが変わると混乱し元に戻すように求めたり、パニックを起こすため配慮が必要。 ・自分の気になることを、何度も聞き返す。 ・くるくる回るものやキラキラするものに集中し、動けなくなることがある。 ・上半身を前後に揺らす、ジャンプを繰り返すなどがあり、時と場所に依りて配慮している。 ・日常生活の中で、決まったルーティン(例:服を着る順番が決まっているなど)を行わないと次の行動につれられない。 ・日常生活の中で、決まった道以外を通るとパニックになる。 		

⑱ 対人面の不安緊張・集団への不適応		支援が必要な場合がある(月1回以上)	常に支援が必要(週1回以上)
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関係で緊張状態になり、集団生活の場面に参加できなかつたり、参加しても行動に移せない場合。 	
	具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間学校へ行けなかつたり、事業所の中に入れなかつたり、家に引きこもっている状態。 ・全くもしくは短時間しか集団参加できず個別に対応が必要。 ・新しい場所など慣れない場所に行くと動けなくなり、会話ができなくなる。 ・不安緊張が高まるとその場にいられなくなる、もしくはその場で動けなくなってしまう。 ・緘黙がある。 ・ファンタジーの世界に入ってしまう、やりとりが成立しない。 ・爪かみ、指しゃぶり、温度、音が過剰に聞こえる、つま先立ちで歩く、光や色を過剰に感じることもある。 	

⑳ 読み書き		支援が必要な場合がある	常に支援が必要
	状態	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み書き及び意味の理解の一部を自分で行えないため、部分的に支援(見守りや声かけ等の支援を含む)が必要な場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み書き及び意味の理解に関して全面的に支援が必要な場合。
	具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・学習障害の疑いがあり、一部理解はできるが、見守りや口頭で補足の説明が必要。 ・書くことが困難なため、パソコン等の代用手段の使用、漢字ではなくひらがなで答えるなどしている場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字では理解できず、コミュニケーションツールを使用することで理解できる。 ・文字に興味を示さない。 ・学習障害の診断がある。